

窓

京都新聞 令和2年(2020年)11月4日(水)

遠隔授業に課題と可能性

木津川市・日浅 里菜(大学生・20)

文部科学省が小中高校の遠隔教育に学術ネットワーク「SINET(サイネット)」を使うことを決めた。

SINETとは、光ネットワークを使って超高速で結び、研究用の大容量データを共有できるネットワークである。効果的に取り入れることにより、児童が多様な意見に触れ、さまざまな経験を積む機会が増えるこ

とや教育の質が上がる可能性がある。これについて考えたことが二つある。

一つ目は、遠隔教育を行うことによって、実際に会う話す場面が減り、児童の社会性やコミュニケーション能力を身に付ける機会が得にくくなってしま

の多様な性格や状況などを理解し、これまで以上に信頼関係を築いていき、映像を通しての密な交流が求められると考える。

二つ目は、少子化や過疎化が進んでいく中で、どうしても各学校での子ども同士だけでは多様性が学びにくい場合もある。遠隔教育では、映像でつながることで他校の児童の様子だけではなく世界の様子も知り、理解することができる。よって、よりグローバル社会に対応できると考える。

※無断転載不可